



昭和55年度秋季特別展

# 越前の画人

〈江戸初期～明治〉

昭和55年度秋季特別展

# 越前の画人

江戸初期～明治



⑤ 島田墨仙筆 貴人弾琴図

福井市立郷土歴史博物館

## はじめに

当福井市立郷土歴史博物館は、昭和二十八年の創立以来はや二十八年間を経過しました。その間、皆様の非常な御援助御協力により、館蔵史(資)料も一万点を遥に越え、館内外の諸施設はともかく収蔵品の質と量においては、全国屈指の地方博物館に成長致しました。このため当館では、それら多数の貴重史(資)料を順次公開して、郷土先人の偉業を偲び、その研鑽努力を認識し得るよう、様々の展示や出版・講座等を企画し、多大の成果を挙げることが出来ました。これひとえに、御支援を賜りました皆様の御陰と深く感謝申し上げます。次第で御座います。

さて、この度は「越前の画人江戸初期〜明治」と題する本年度秋季特別展を開催する運びとなりました。本展は、右記収蔵史(資)料を中心に、県内旧家・愛好家各位の御協力を得て、江戸初期から明治にかけて越前を舞台に活躍した主要な画人の作品を展観し、その方面での郷土先人の遺業を偲んで頂こうとするものであります。また、今回折角収集し整理した各画人の代表作や様々の資料を、本特別展開催期間中の

みに留めて、再び分散してしまうのは誠に惜しくありますので、本解説目録を作成して後世に遺すことと致しました。

この目録が、郷土画人の筆跡と略伝に関する資料として、研究者・愛好家の御参考となれば、館員一同望外の喜びとするところであります。

末筆ながら、本展のため貴重な御所蔵品を快く御出品下さいました各位に対し、篤く御礼申し上げますと共に、今後とも当館の発展のため、皆様からの御支援を心より御願ひ申し上げます。次第で御座います。

昭和五十五年十月一日

福井市立郷土歴史博物館

館長 宇野沢 利勝

## 凡 例

一、本書は昭和五十五年十月一日より同月三十一日までを会期とする、昭和五十五年度秋季特別展「越前の画人江戸初期「明治」の解説目録である。

一、本目録は、前半部に主要展示資料の写真を収め、後半部には全展示品の目録とその解説及び収録画人の略伝等を、概ね時代順に配列してある。

一、後半解説部分の各資料に付した「資料通し番号」は、本目録内の写真に付した番号とすべて一致し、福井市立郷土歴史博物館に於ける実際の展示品に付した資料番号とも共通している。

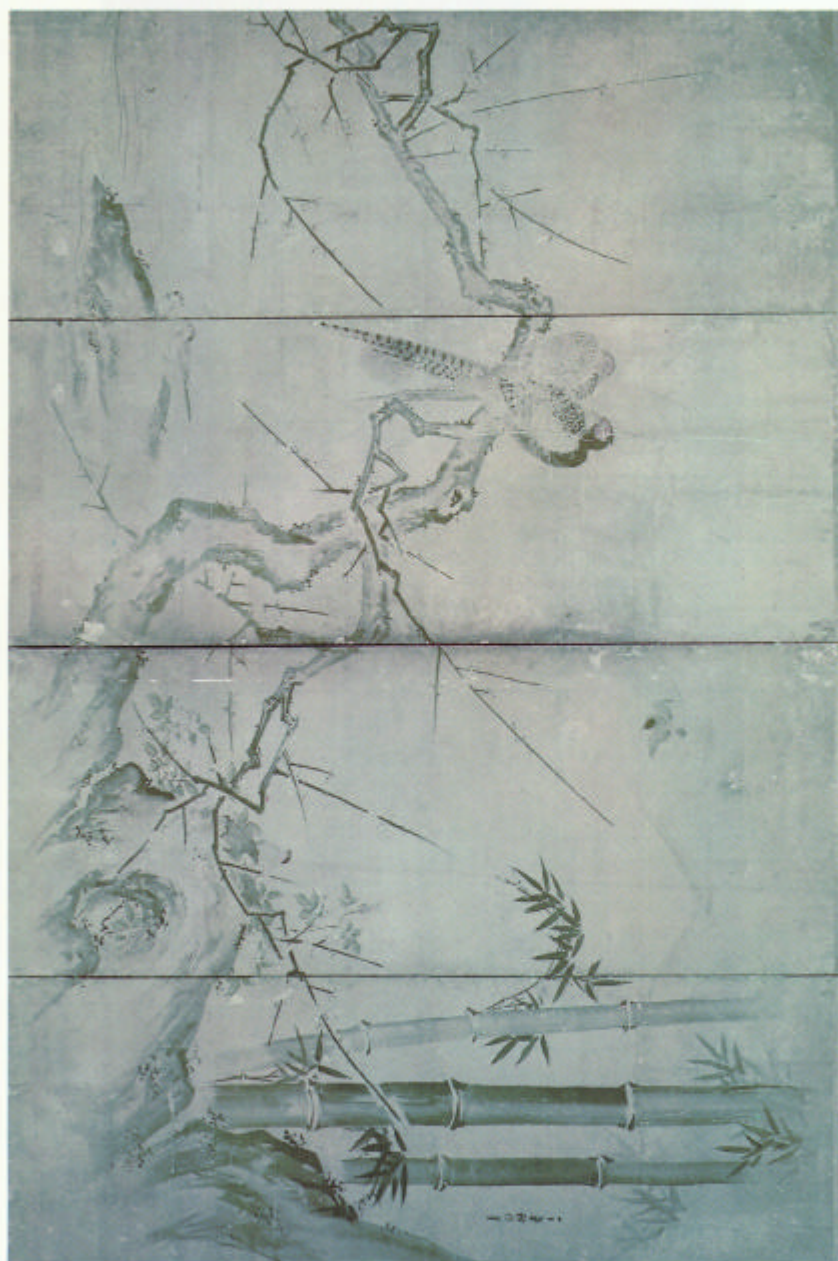
一、本展観では、一応時代を明治期までに限定したが、大正・昭和期の物故者の内、島田墨仙・内海吉堂・長田雲堂・山田介堂の四画伯だけは、例外的に展示し本目録にも収録した。

一、所蔵者の注記は、本館の收藏品については「福井市春嶽公記念文庫蔵」「越葵文庫蔵」の外、「〇〇市 〇〇〇氏贈」「〇〇市 〇〇〇氏寄託」として寄贈品・寄託品の別を示した。また、今回の特別展に限って諸家より借用した品々については、「〇〇市 〇〇〇氏蔵」と注記してある。

一、会期中、本目録内の資料の展示換えや、目録以外の資料を展示することもある。

(本目録題字は山田祖舟氏筆。表紙カラー図版は、越葵文庫蔵「爆竹調馬の図」巻軸〔資料番号⑦⑩〕の主要部分である。)

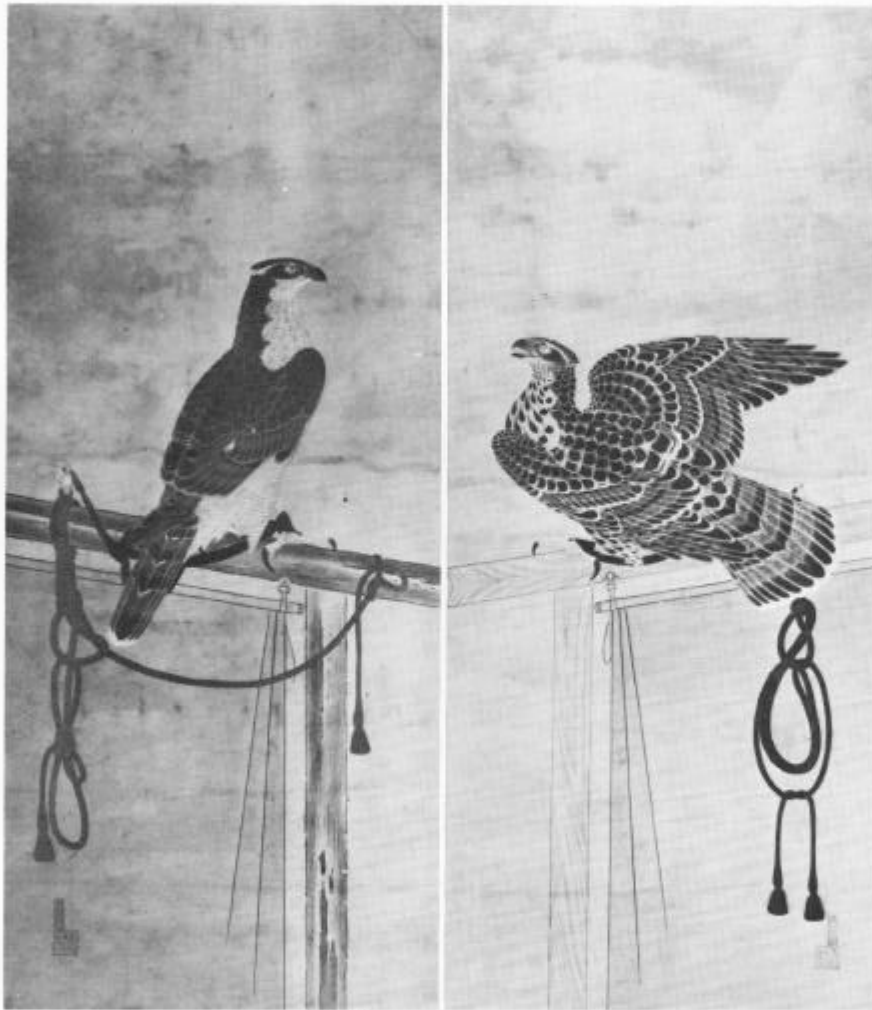
①狩野種信筆「群禽松竹梅图」六曲屏風(部分)





⑤島田墨仙筆「大石良雄致城掃途の図」

(1) 橋本氏三代 橋本浄清



① 「<sup>つがひ</sup>鷹の岡」六曲屏風（部分）

(2) 狩野元昭



③ 虎に鐘鬼の図

(4) 岡部南嶽



⑤ 若竹の図

(5) 市川徳行



⑥ 波頭鯉の図



(6) 明正寺竹叟



⑦ 竹の図



⑩ 人物漫画

(7) 中村西溪



⑧ 花鳥の図



⑨ 鶴亀松竹梅の図

(9) 木津成助



⑫ 深山遊虎の図

(10) 今立春山

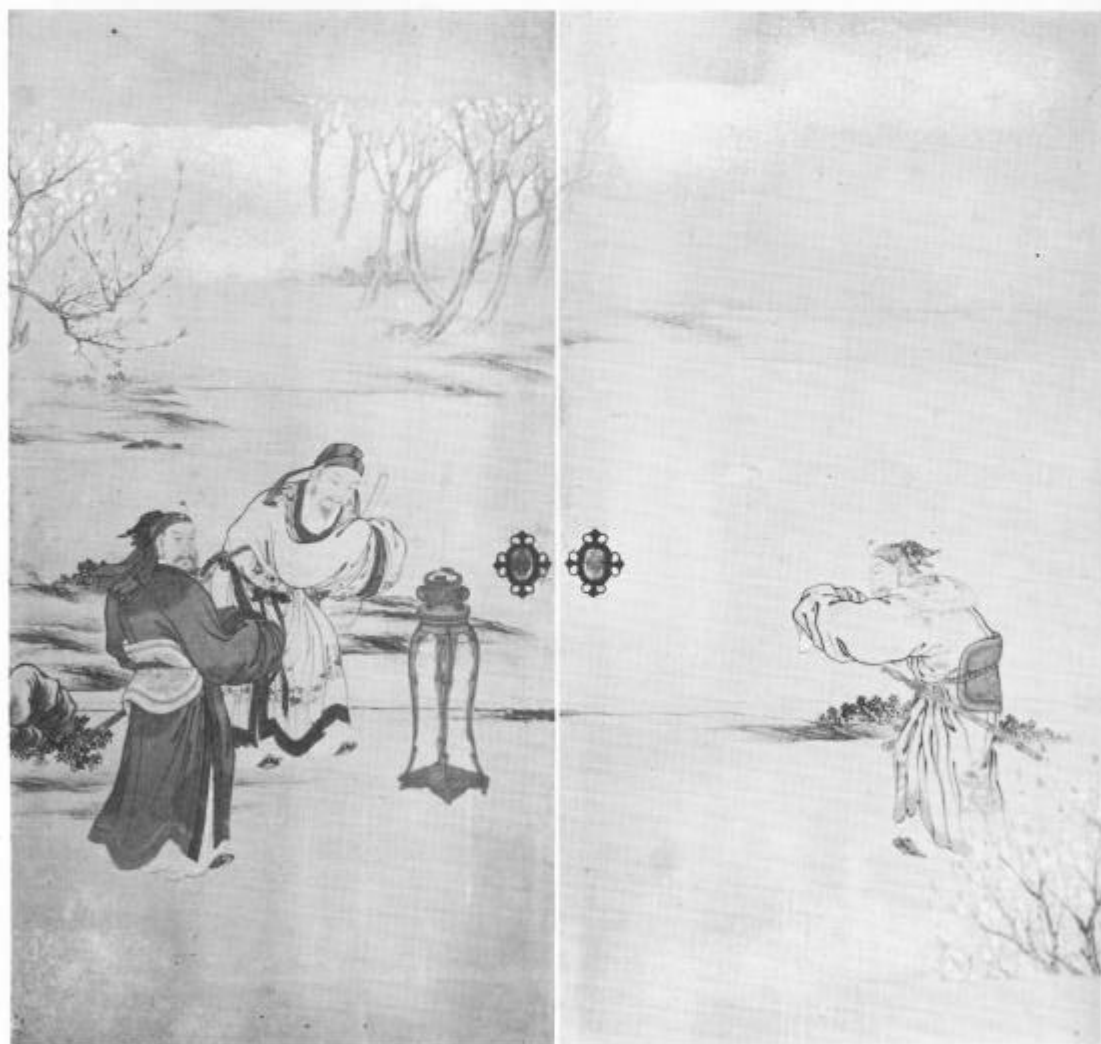


⑬ 鐘鬼の図

(11) 高島夢蝶



⑭ 「燕に油揚」の戯画



⑩「支那人物並びに山水の図」襖（部分）

⑬ 須子蕉石



⑭ 仙人図



⑮ 菊花図



⑳ 山水の図

(15) 蒔田雲處



㉑ 墨梅図



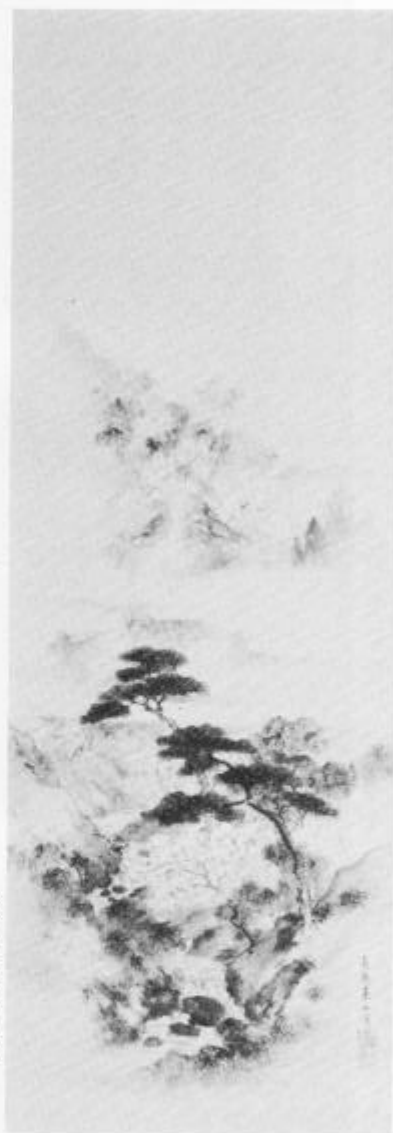
㉒ 叢竹の図



四季花鳥小屏風(部分)



夏景山水の図



29 山中桜花の図



30 月夜梅の図



(18) 成見如山

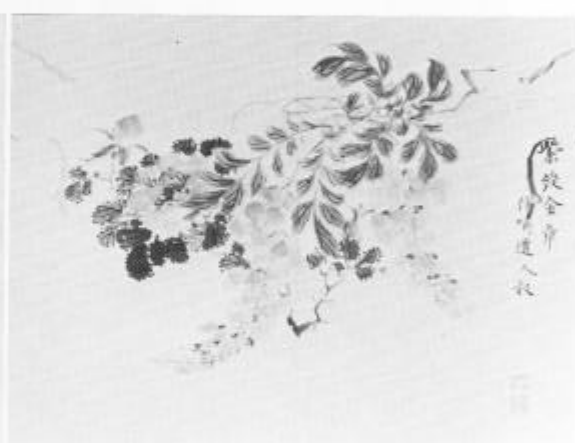


(30) 秋景山水の図

(19) 早瀬米山



(33) 韓信股くぐり図





③⑧ 橘曙覧肖像画（部分）



③⑦ 梅に蘭の図



39) 桜花群禽の図



40) 橘暗覧賛 杜鵑の図

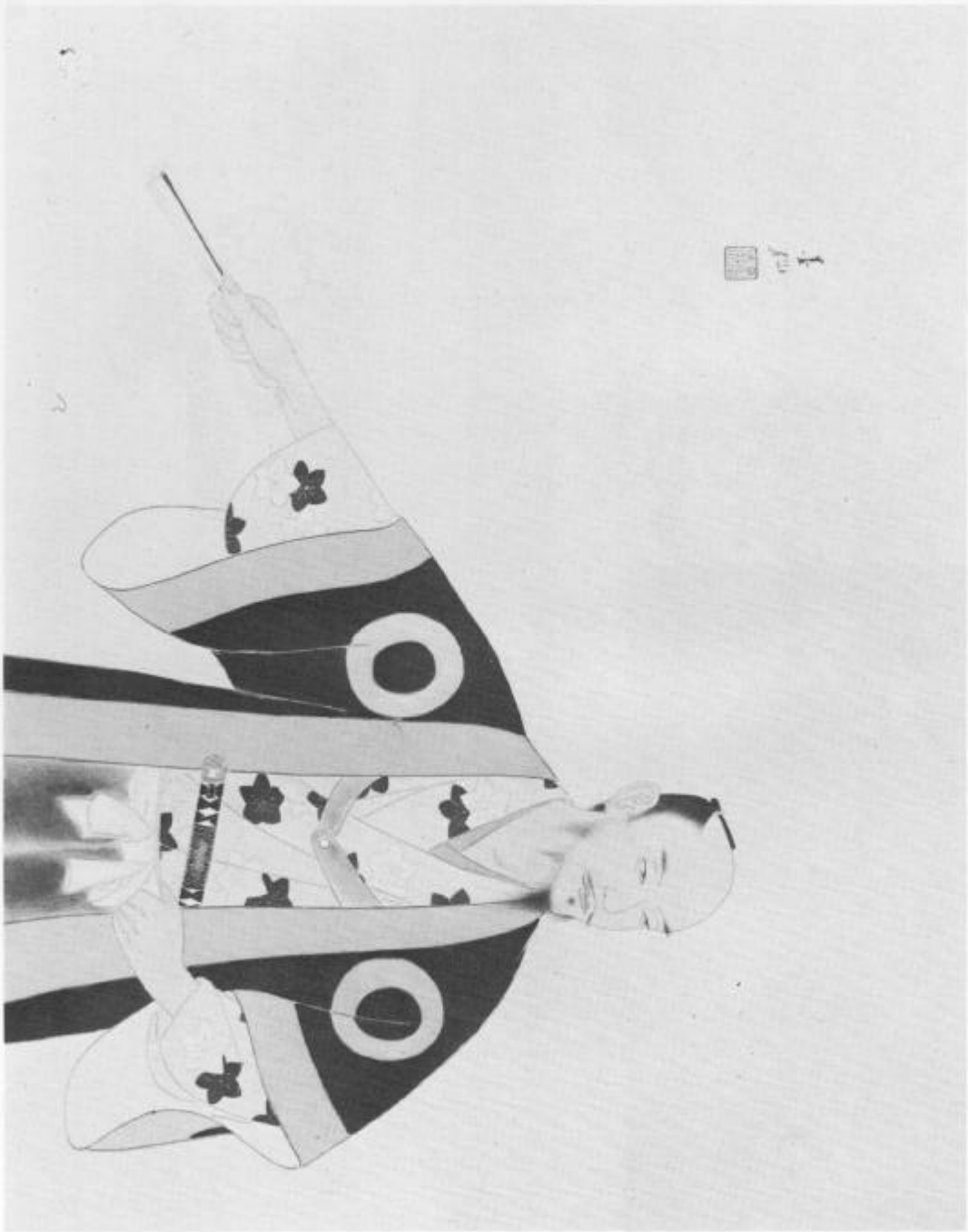


④3 瀑布図



④4 月夜に狼の図

23) 島田墨仙



24) 加藤清正の図



④⑩ 松樹下高士の図



④⑦ 大原女の図

24 内海元孝



49 白居易の図



55 月夜蝙蝠の図





66 花鳥図 杉戸



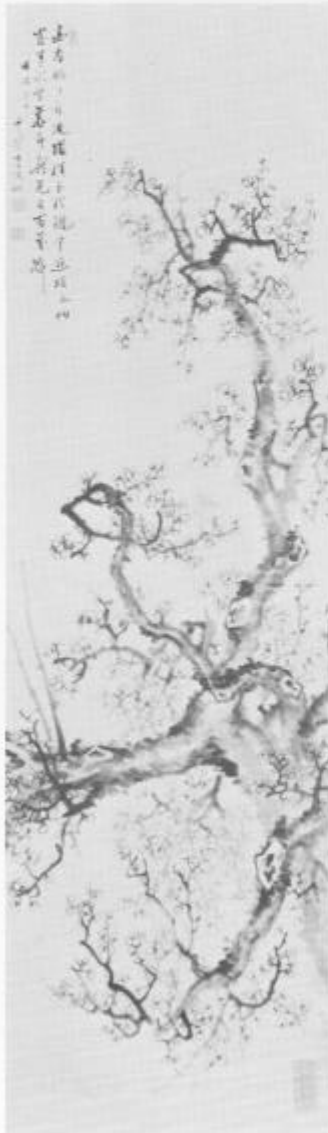
59 山水の図



57 『江南春鶯・塞外秋風・六曲屏風(部分)』



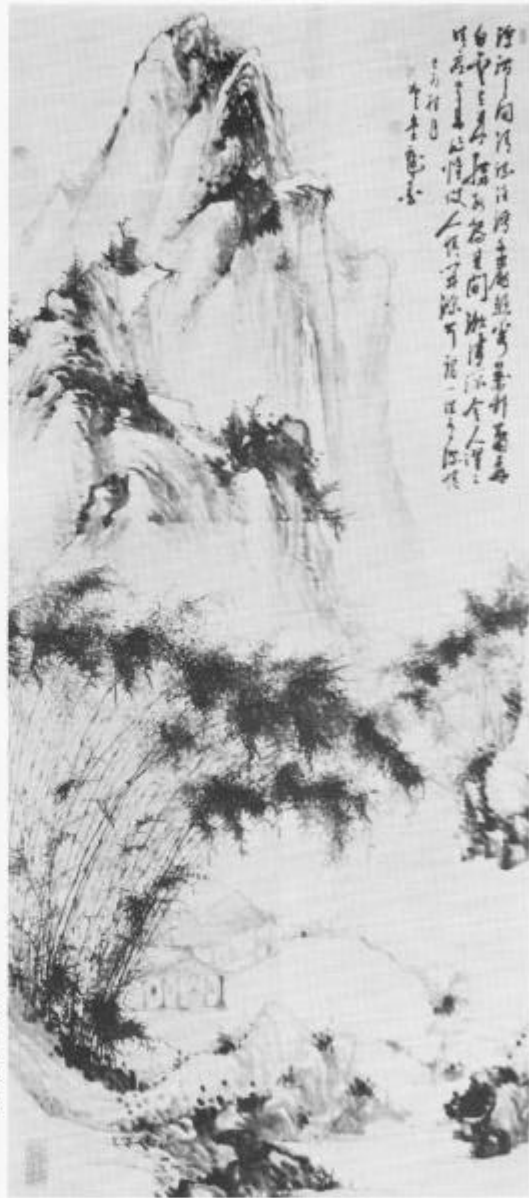
58 「大鯉の岡」二曲屏風



60 松竹梅の図



⑥② 柳桃飛燕の図



⑥① 山水の図



春



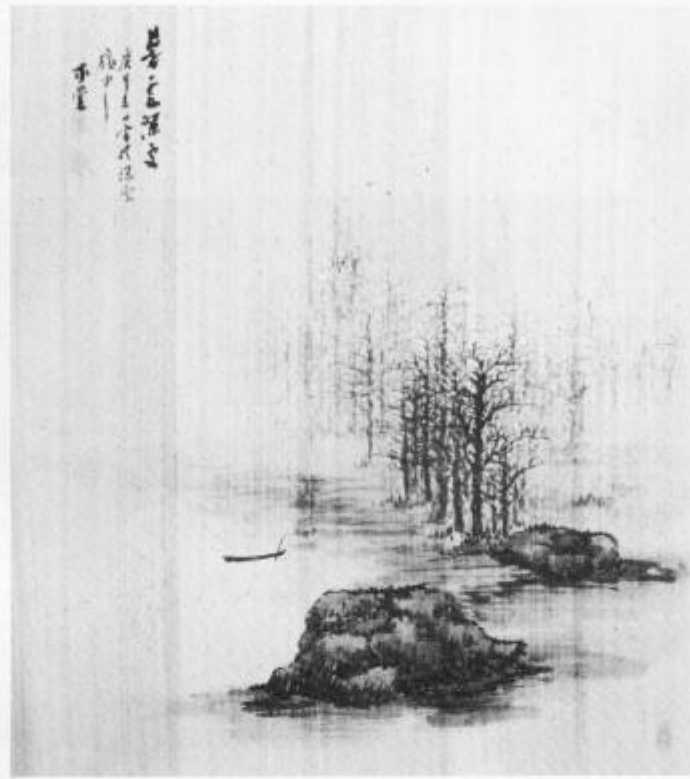
夏



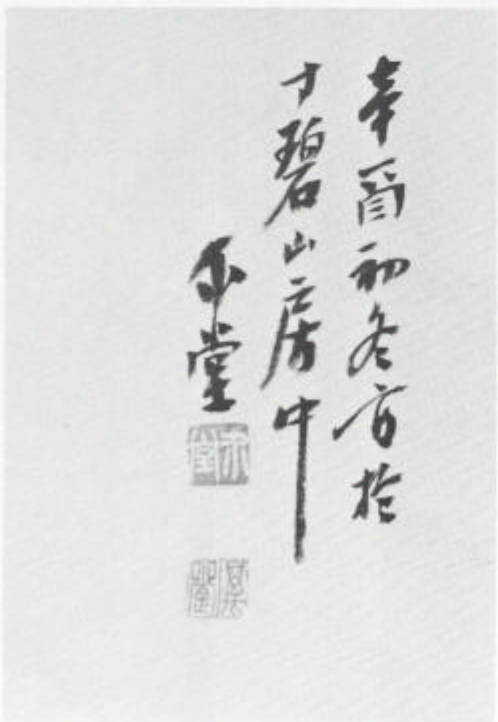
秋



冬

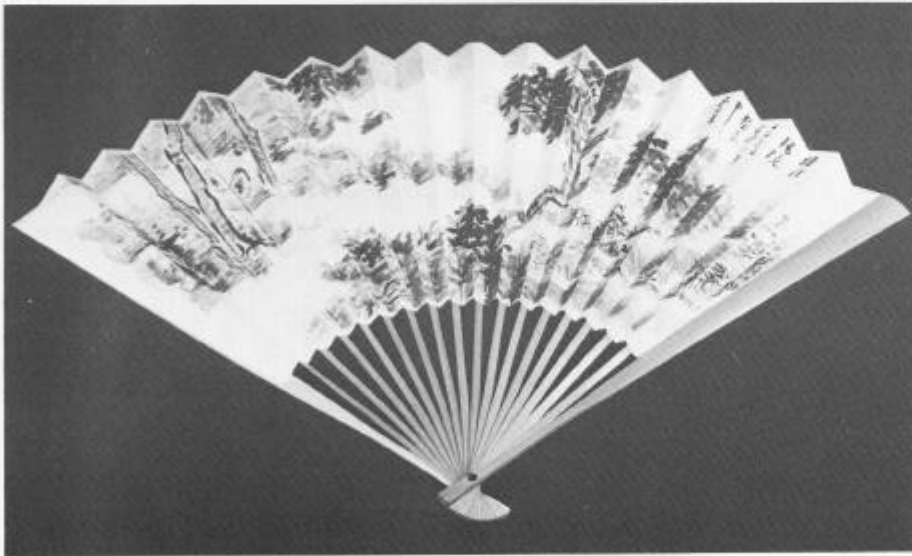


④ 林間湖水並びに杏子の図 衡立

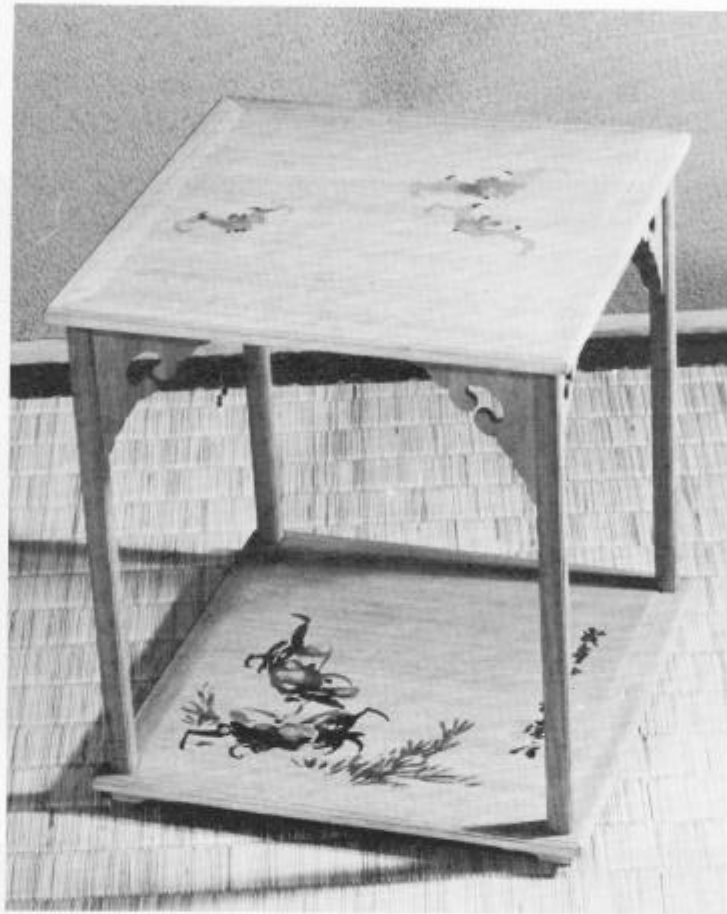


65 「山水花卉冊」の画帖（部分）

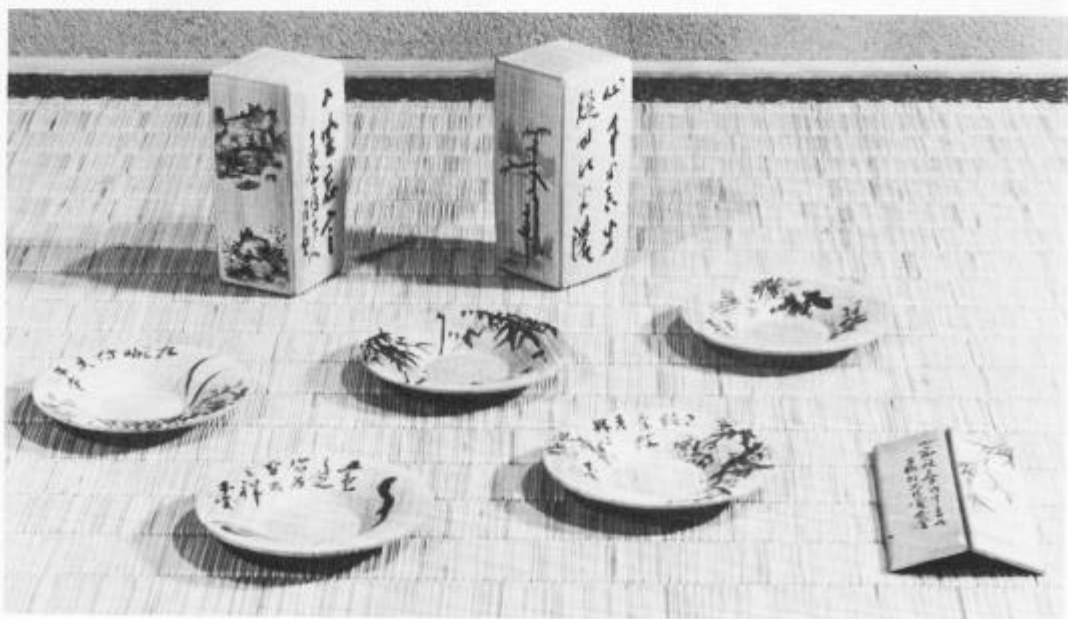




⑥7 「設色山水」の扇面 (二握)



⑧ 桐製煎茶器



昭和五十五年度秋季特別展

## 越前の画人展 江戸初期

明治

### 解説総目録

#### (1) 鷹絵の能手 橋本氏三代

橋本喜雲とその子浄清、孫の仙桂と続いた橋本氏三代は、世に「敦賀鷹」「長兵衛鷹」などと称されて有名な鷹絵の能手であった。

初祖喜雲は安土桃山期より江戸初期の人で、敦賀の中橋町に住み、鷹事（鷹狩等の事）に詳しく、よく鷹の絵を画いた。そのため天正年間（一五八〇年代）、時の敦賀城主蜂屋頼隆に召されて鷹について進講し、橋本の姓を賜わったと伝えられ、寛永二年（一六二五）四月に歿した。

喜雲の知識と画才は、子浄清・孫仙桂に受継がれ、当時越前を代表する鷹の絵師としてもはやされたのである。

#### ○橋本浄清

橋本喜雲の子。父同様鷹を画く名手で、通称を長兵衛といったことから、「長兵衛鷹」の令名が生じた。鷹事に詳しく、小浜藩主京極忠高の質問に答えるなどした。

寛永十三年（一六三六）酒井忠勝が日光東照宮に板屏風を寄進した際、その命をうけてこれに鷹の絵を画き、今に伝えられている。寛文十年（一六七〇）出版の「和漢印尽」にも「敦賀住鷹絵書」と紹介され、当時鷹の絵師として全国に名高かった。正保四年（一六四七）七月歿す。

#### ① 「繫鷹の図」屏風 紙本著色

六曲二双  
敦賀市 石井左近氏蔵

#### ○橋本仙桂

寛永十一年（一六三四）十月二十三日、橋本長兵衛浄清の子として敦賀中橋町に生まれる。通称新之進。十五歳で父を失ったが、その才能を惜しんだ小浜藩主酒井忠勝の庇護を受け、京都の狩野探幽について絵を学んだ。三十歳で敦賀に帰り、福井二代藩主松平忠直に仕えて二人扶持を給わり、寛文十二年（一六七二）八月には三人扶持を加増になった。また小浜藩主酒井忠隆・忠固にも仕え、祖父や父のあとをうけて鷹の絵を得意とし、自ら敦賀鷹絵師と称した。

#### ② 「繫鷹の図」二曲屏風 紙本著色

一隻  
敦賀市 石井左近氏蔵

#### (2) 狩野元昭

福井藩の御抱絵師狩野了之の嫡男として福井に生まれた。通称九郎次郎、了海と号した。はじめ、父了之について学び、のち幕府の奥絵師で、大徳寺玉林院の客殿画「七賢四愛図」で有名な狩野法眼安信（永真）に入門して修業した。

万治三年（一六六〇）父了之の歿に伴ない家督を相続し、百五十石を給され、福井四代藩主光通より、やがて父了之の同様二百石に加増する旨の約束を受けるなど寵愛されたが、天和元年（一六八一）三月十一日五十九歳にて歿した。

#### ③ 虎に鐘鬼の図 紙本墨画

一幅  
福井市春嶽公記念文庫蔵

### (3) 狩野種信

福井藩御抱絵師。狩野元昭の四男として生まれ、名を太助元房、のち種信と改め、了章と号した。兄元英竹雲の病死により、元英の養子となつて家を継ぐことを藩に願ひ出たが、六代藩主松平綱昌の時、藩領半減等の騒動があつて、養子の願出は許可されなかつた。このため浪人した了章は関東に行き、一時諏訪家・松平左兵衛督信平に仕えたが、幸運なく再び浪人し、市中に出て画をかいて生計をたてる一方狩野法眼永叔へ入門して画技を深めた。元禄七年（一六九四）七代藩主松平吉品により、再び福井藩に召抱えられ、これにより福井藩御抱絵師の狩野家は再び栄え、了章を中興の祖とする。元文四年（一七三九）三月六日、七十三歳で歿した。

④ 「群禽松竹梅図」屏風 紙本著色

六曲一双

福井市 宮下己代治氏贈

### (4) 岡部南嶽

享保十八年（一七三三）十月十一日、福井に生まれる。幼名は長十郎、内記・右膳・左膳などと称し、貞起・南嶽と号した。明和六年（一七六九）藩の家老職となり、千五百石の家督を相続した。書画を好んだが特に墨竹を描くのを得意とし、名手として知られる。寛政十二年（一八〇〇）四月十九日江戸にて六十八歳で歿した。

⑤ 若竹の図 絹本墨画

一幅

福井市春嶽公記念文庫蔵

### (5) 市川徳行

福井城下で福井藩士市川有右衛門光隆の子として生まれ、八石二人扶持金津の代官受込役を勤めた。字は貫通、徳行。

樵笛と号す。通称良右衛門。

早くより画を好み、江戸に出て狩野園陵に入門した。常に写生画を研究し、特に鯉を描くにおいては、市川の鯉と称されるほどで、自邸の庭に鯉を飼つて、その生態を観察研究するなど、他人の追隨を許さぬものがあつた。

また、墨に金粉を交せて、鯉の鱗を描く技法を研究し、迫真の筆致を生み出すことに成功し、鯉の絵を依頼された時は、その金粉代を請求したという。

天保六年（一八三五）五月十七日歿す。

⑥ 波頭鯉の図 紙本墨画

一幅

福井市春嶽公記念文庫蔵

### (6) 明正寺竹叟

安永三年（一七七四）正月元旦、今立郡に生まれる。名は静巖、字帰山、竹叟と号す。漢籍・詩文及び書は父に学び、かたわら画をよくして、その名が高かつた。また歌も学び、長崎・江戸にて書家・画家など有名の文人と交遊し、福井藩十四代藩主松平齊承の寵愛を受けた。その他間部詮勝等の諸大名とも交わり、悠々自適風雅のうちに、その生涯を終わった。天保十一年（一八四〇）正月十一日、六十七歳で歿す。

⑦ 竹の図 紙本墨画

一幅

福井市 宮下己代治氏贈

### (7) 中村西溪

寛政四年（一七九二）敦賀市谷口、造酒業井筒屋忠兵衛の二男として生まれた。名は元矩、字は子文、通称伊助、西溪と号す。

十四歳の時、絵を学ぶため京都に出て松村景文に入門。花

鳥を得意とし、特に虫類を描く妙手として知られる。

弘化二年（一八四五）三月十八日、五十四歳で歿す。

⑧花鳥の図 紙本著色

一 幅  
敦賀市 石井左近氏蔵

⑨鶴亀松竹梅の図 絹本著色

一 幅  
福井市春嶽公記念文庫蔵

⑩人物漫画 紙本著色

右 同 一 幅

### (8)伊星雙岳

太崎太郎右衛門の二男に生まれ、丸岡藩士伊星家を継ぐ。

名は星諭、通称は源助、字元詮。幼少より画を好み、文化元年（一八〇四）三月二十六日、藩の絵師となった。

弘化四年（一八四七）九月二十二日病歿す。

⑪小野玄信肖像画 紙本著色

一 幅  
福井市春嶽公記念文庫蔵

### (9)木津成助

天明三年（一七八三）敦賀市東町山本道庵の子として生ま

れ、今立郡栗田部木津治左衛門善兆の養子となる。岸駒がんくに就いて画を学び、才能を發揮した。晩年は敦賀に隠居し、嘉永

六年（一八五三）四月十二日、七十一歳で歿す。

⑫深山遊虎の図 紙本著色

一 幅  
福井市 宮下己代治氏贈

### (10)今立春山

福井藩士今立助左衛門英豊の子として生まれる。通称五郎太夫、名は有慶。幼少より画を好み狩野興信の門に学び、の

### (11)高島夢蝶

通称甚五左衛門、夢蝶と号し、別に悟則齋の号を用いた。

家は福井藩居合の師範家であり、夢蝶も居合をはじめ諸芸に通じ、特に狂画は著名である。

尚、「越前国名蹟考」（文化十二年<sup>一八</sup>、福井藩士井上翼章編）

の挿画は夢蝶が描いたものである。

⑬「鳶とびに油揚」外の戯画 紙本著色

二 幅  
福井市春嶽公記念文庫蔵

⑭「越前国古今名蹟考」挿画 紙本著色

「越前国名蹟考」は、福井藩士井上翼章が越前国内の地

名・旧蹟・名所・神社・寺院・産物等々について、現況はもとより諸種の古典をも引用して編纂したもので、越前の

歴史地理を研究する上で欠くことのできない基本図書である。十三巻本と十四巻本の二種が存し、はじめ文化十二年

（一八一五）八月に十三巻本として著わされたが、翌十三年、藩命により浄写本を献じた時、これを増補して十四巻

本とし、表題も「越前国古今名蹟考」とされた。ここに展示した十四巻本は、福井県立図書館委託「松平文庫」に蔵する翼章の自筆本で、その挿画は高島夢蝶の筆になる。

松平文庫蔵

(12) 今村公寵

敦賀西浜町の人、俗称久左衛門、絵を塩川文鱗の門に学んだ。明治元年八月十七日歿す。

⑩「支那人物並びに山水の図」襖 紙本著色 表裏八面 敦賀市 石井左近氏蔵

(13) 須子蕉石

通称孫作といい、諱は變、字は柔卿、焦石または王岡と号した。鯖江藩士で、南宗派の山水を描くことに長じていた。文久三年（一八六三）十二月十六日、七十四歳で歿す。

⑪「高砂」翁媪の図 紙本著色 一幅 鯖江市 林 馨氏蔵

⑫菊花図 紙本著色 一幅 右 同

⑬仙人図 絹本著色 一幅 福井市 宮下己代治氏贈

(14) 益子魯山

通称勘左衛門、名は賚、字は大賚。鯖江藩士。文政四年（一八二二）十一月十日、亡父勘左衛門の家督を相続し藩務にはげむと共に、同藩士須子蕉石に就いて画法を学んだ。万延元年（一八六〇）三月二十四日歿す。

⑭山水の図 紙本墨画 一幅 鯖江市 青柳宗和氏蔵

⑮山水の図 紙本墨画 一幅 福井市春嶽公記念文庫蔵

(15) 蒔田雲處

越前の人。幼少より書画、詩作にすぐれ漢学者としても著名である。

初め越前で代官を勤めたが、中傷する者があって職を辞し大阪・京・江戸を転住した。晩年足羽山に住み病のため自由を失い、左手のみで墨竹を描いた。

慶応元年（一八六五）五月十三日、五十四歳で歿した。

⑯叢竹の図 紙本墨画 一幅 福井市春嶽公記念文庫蔵

⑰竹石画帖 紙本墨画 一帖 題簽「雲處粉本」。末尾に「丁卯（慶応三年）六月廿日

春嶽永観（花押）」と、松平春嶽自筆の書込みがあるように春嶽愛蔵の画帖で、嘉永癸丑（六年）の作品である。

⑱墨竹・墨梅図 紙本墨画 三幅 「笠原家文書」中の三幅で、北陸種痘の開祖として有名な藩医笠原白翁の旧蔵品である。

本館蔵

(16) 川地柯亭

安永九年（一七八〇）福井藩士川地忠左衛門の子として生まれる。名は義裕、通称又兵衛、柯亭と号した。

弓術・馬術・槍術・砲術・詩歌に通じ、かつ画法を京都の紀竹堂、江戸の谷文晁に学んで、晩年には明清の画法を慕った。

札所奉行、御纏頭、御先物頭等を歴任、藩主松平春嶽（慶永）の信任が厚かった。

明治五年（一八七二）十月十七日、九十三歳で歿、曹洞宗

通安寺に葬られる。

②5 四季花鳥小屏風 紙本著色

六曲一双  
福井市 小島龍美氏藏

②6 福井藩儒高野真齋賛 山水の図 紙本著色

一幅  
右 同

②7 夏景山水の図 絹本著色

一幅  
福井市春嶽公記念文庫藏

②8 福井藩士村田謙齋賛 桃太郎話の図 紙本著色

一幅

明治五年八月、柯亭九十二歳の作

東京都 村田正典氏寄託

### (17) 石垣東山

文化二年（一八〇五）敦賀に生まれ、通称を東平と称し、東山又は角鹿石東などと号した。京都に出て田中日華の門に入って絵を学び、円山派の絵をよくした。敦賀に帰り鞠山藩主酒井家に仕えたが、天保十二年（一八四一）藩主が大坂玉造に定番勤務になった際、これに随従した。同十四年、藩主は若年寄に昇任して江戸に赴任したが、東山は大坂にとどまり、絵を教授した。明治画壇の女流画家跡見花溪女史も門人の一人であり、中西浄心、岸田文吉なども東山の門から出た逸材である。郷里敦賀にある時は柿谷半月に狂歌を学んだ。彼は無欲恬淡で、人に接して情誼が厚かったという。明治九年（一八七六）二月六日、大阪にて七十二歳で歿した。

②9 山中桜花の図 絹本著色

一幅

福井市春嶽公記念文庫藏

③0 月夜梅の図 絹本墨画

一幅

敦賀市 石井左近氏藏

### (18) 成見如山

福井藩士として毛矢町に生まれる。通称は七郎右衛門。画を谷口靄山に学んで、山水を得意とした。また、肺病にかかり、その治療法として盆栽を嗜んだと伝えられる。

明治十七年（一八八四）六月十日歿した。

③1 秋景山水の図 紙本著色

一幅

福井市春嶽公記念文庫藏

### (19) 早瀬来山

幼名を獻橘、のち鴻と改めた。初め晚翠、嫩僊、二石斎などと号したが、晩年来山に改めた。文化五年（一八〇八）福井に生まれ、はじめ画を父蘭川に学び、のち京都の松村景文・岡本豊彦等に師事した。豊彦は、来山の非凡な画才を愛し嗣子にしようとしたが、父蘭川は病弱の理由でこれを辞退した。明治二十三年（一八九〇）二月五日八十三歳で歿した。福井真宗大谷派称念寺に葬られる。

③2 支那賢人図 紙本著色

一幅

福井市春嶽公記念文庫藏

③3 韓信股ぐりの図 紙本著色

一幅

右 同

③4 支那武将図 紙本著色

一幅

右 同

### (20) 河野菱渚

弘化元年（一八四四）丹生郡吉野村本保に生まれた。名は通兄、通称は條左衛門、菱渚または半湖と号した。南宗画を父通香に学び、明治二十三年京都画学校の教授となる。

明治三十三年（一九〇〇）歿した。

③5 不老長春の図 紙本着色 一幅  
福井市春嶽公記念文庫蔵

③6 謎語淡彩画帖 紙本着色 一帖  
福井市

③7 梅に蘭の図 紙本墨画 一幅  
宮下己代治氏贈

③8 橘 曙覧肖像画 絹本着色 一幅  
慶応四年（一八六八）正月、橘曙覧が丹生郡本保村（現

武生市本保町）の河野苳洲（本保の豪農で漢学者として著名）邸を訪問した際、居合わせた河野菱渚が写生した曙覧晩年の肖像である。曙覧の遺族の間では、「春嶽公から拝領した白紬の袷を着て、コタツに入っているところを写してもらった」と家伝されている。曙覧もこの絵の出来栄を喜び、自から「雲ならで通はぬ峯の岩かげに神世のほひ吐く草の花」と賛歌を書加えている。  
落款の「越智通兄」とは菱渚のことで、通兄はその実名である。  
東京都 井手孟雄氏寄託

## (21) 島田雪谷

名は広意、通称範左衛門又は多可摩、字は樗園、雪谷又は青涯等を号した。文政十一年（一八二八）福井藩士の家に生まれる。槍・剣・銃等武芸に通じ、また、絵画ばかりでなく書道にも才能を顕した。初め画を岩尾雪峯に、のち長州の南宗画家礪西崕に学び南北二派を兼修し、南画には青涯、北面には雪谷の号を用いた。藩主松平慶永（春嶽）、茂昭等の知遇を受け、遠近の門人千名を越すといわれた。

明治十七年（一八八四）一月二十九日、五十七歳で歿す。

③9 桜花群禽の図 紙本着色 一幅  
島田豊即ち墨仙画伯はその次子である。  
福井市春嶽公記念文庫蔵

④0 橘 曙覧賛 杜鵑の図 紙本着色 一幅  
雪谷・曙覧の合作で、曙覧の賛歌は

二声とせぬもうらみす  
ほと、きす聞えさる夜  
に思ひかやして 曙覧  
というものである。

④1 富嶽に松原の図 紙本着色 一幅  
福井市 岡本 等氏蔵

④2 花卉図二曲屏風 紙本着色 一幅  
福井市 宮下己代治氏贈

## (22) 島田雪湖

本名甫、雪湖、雪附などと号した。福井藩士島田雪谷の長男として慶応元年（一八六五）に生まれた。墨仙画伯の兄にあたる。はじめ弟墨仙と共に、福井に画塾を開いていたが、明治二十六年岡倉天心の招きで上京、美術学校で教鞭をとった。同三十四年、米国に渡りスタンフォード大学等で日本画を教授して名声を博し、自己の画域を大いに広めた。三十八年（一九〇五）日本美術学校の教授に就任のため帰国の途につき、同年十二月神戸港に帰着と同時に急死した。

④3 瀑布図 紙本墨画 一幅  
福井市春嶽公記念文庫蔵

④4 月夜に狼の図 紙本着色 一幅



(23) 島田墨仙

福井市 青木 彰氏寄託

慶応三年（一八六七）十月九日、福井藩士島田雪谷の二男として生まれ、幼名を豊作といい、のち豊と改めた。少年期より非凡な画才を発揮し、はじめ父雪谷に学び、明治二十九年（一八九六）上京して橋本雅邦に入門、のち川崎千虎について学んだ。

明治三十六年に開催された第五回内国勸業博覧会展に出品した「大石主税刺鼠図」で認められ、その後帝展に関係して、その委員となった。昭和十八年「山鹿素行先生」で帝国芸術院賞をうけた。ことに歴史人物画をよくし、描く人物の精神面をも表出する重厚な筆致や、作品全体にあふれる気品の高さをたかく評価されている。

昭和十八年七月九日、七十七歳で歿した。

④5 「致城帰途」の図 絹本着色

一幅

明治三十年秋の第三回共進会に出品して銅賞を授与された墨仙の出世作で、城を明け渡して帰る大石良雄（内蔵介）の悲痛な風貌を、品格の高い筆致で表出した名画である。晩年大成された画風の特徴がよく出ているといわれる。

④6 加藤清正の図 絹本着色

一幅

福井市 藤田幸雄氏蔵

④7 大原女の図 絹本着色

一幅

本館蔵

④8 松樹下高士の図 絹本着色

一幅

右同

④9 白居易の図 絹本着色

一幅

越葵文庫蔵

⑤0 貴人弾琴の図扇面 紙本着色

福井市 小島龍美氏蔵 一額

⑤1 群馬の図扇面 紙本墨画

福井市 岡本 等氏蔵 一握

⑤2 壁書謹写の記 紙本墨書

福井市春嶽公記念文庫蔵 一卷

昭和六年三月、明治神宮絵画館に収められた「王政復古」図の作者島田墨仙が、その図謹写の苦心を記して春嶽公記念文庫主松平慶民に呈したものである。

福井市春嶽公記念文庫蔵

(24) 内海元孝

敦賀一向堂町の人、十三歳で京都に出て、円山応挙の門に入り、応挙の歿後は長沢蘆雪に学び、敦賀に帰って絵を業とした。天保六年（一八三五）七月十四日、六十四歳で歿す。

⑤3 柿谷半月賛 若州日向浦の図 紙本着色

一幅

元孝と敦賀の狂歌師として有名な柿谷半月の合作で、半月は

名にしおふ蛭かの海は

水かさも汐のみちひに

延つち、みつ

との歌を書添えている。

⑤4 猪に蛇の図 紙本着色

敦賀市 柿谷隆夫氏蔵 一幅

⑤5 月夜蝙蝠の図 紙本墨画

敦賀市 石井左近氏蔵 一幅

右同

## (25) 内海元紀

名は元紀、字は士綱、帰山又は螺山・椿水と号す。元孝の子として敦賀に生まれる。初め岡本豊彦に就いて画を学び、五十歳の頃、江戸に出て椿椿山・谷口靄崖の画風を学ぶ。晩年は京都に移住し、明治二十年九月十二日に七十六歳で歿した。

### ⑤6 花鳥図 杉戸

杉板着色

敦賀市 石井左近氏蔵

## (26) 内海吉堂

嘉永二年（一八四九）十二月三日、敦賀一向堂に生まれ、日本画を学ぶ。名は復、字は休郷。壮年時代、号を海復と号したが、晩年吉堂と改めた。

幼くして絵を好み、塩川文鱗に師事した。明治十年五月、上海に渡って各地を遊歴し、学ぶこと六年で帰国、のち再び支那に遊歴するなど画技を深め、特に鯉を描くの得意とした。のち日本画から南宗画に転向し、長田雲堂・山田介堂とともに南宗画の「福井三堂」に数えられている。

大正十二年（一九二三）十月九日、七十四歳で歿した。

### ⑤7 「江南春靄・塞外秋風」の屏風 絹本着色

六曲一双

大正二年第七回文展に出品して褒状を受けた吉堂晩年の大作である。第六回展出品の「船過孟浪梯」と並び吉堂の代表作に数えられている。

福井市 藤田幸雄氏蔵

### ⑤8 「大鯉の図」二曲屏風 絹本着色

一隻

明治三十一年の作品で、郷里敦賀の恩人柿谷氏のため、福井産の絹布を用いて画いた吉堂最盛期の名作である。

敦賀市 柿谷隆夫氏蔵

### ⑤9 山水の図

絹本着色

福井市 小島龍美氏蔵

## (27) 長田雲堂

嘉永二年（一八四九）丸岡町に生まれ、幼くして孤児となつた。はやくより書画を好み、十五歳の折、京都に出、山中静逸の門に入って南画、特に蘭竹の描法を学び、その後は、日野對山や中西耕石について南画を習得、更に長崎にて沙門鉄翁について画技を深めた。

明治三年には支那へ渡り、ひたすら山水画の描写に専念し、帰国後は郷里にあつて多くの作品を残している。福井三堂の一人に数えられ、終生研鑽怠らず大正十二年（一九二三）東京の自邸で七十四歳で歿した。

### ⑥0 松竹梅の図

紙本墨画

三幅対 福井市 森川 稔氏蔵

### ⑥1 山水の図

紙本墨画

福井市 印牧 恵氏蔵

### ⑥2 柳桃飛燕の図

絹本着色

福井市 藤田幸雄氏蔵

## (28) 山田介堂

通称己三郎、介堂はその雅号である。丸岡町に生まれ、幼くして絵を好み、長じて京都に出て、播州明石の細谷玄斎の門に入り、熱心に画法を研究し、玄斎の歿後は、富岡鉄斎について南画を習得した。鉄斎が門弟同様にして指導した画家は、介堂と独山和尚の二人きりである。一方、介堂は外交的手腕もあり、明治、大正の画壇では相当認められたが、大正十三年五十六歳の時京都で歿した。

⑥3 四季山水の図 紙本著色 四幅対

丸岡町 原 寛治氏蔵

⑥4 林間湖水並びに杏子の図衝立 桐板墨画一部著色 一基

福井市 岡本 等氏蔵

⑥5 「山水花卉冊」の画帖 紙本著色 一帖

福井市 原 多文氏蔵

⑥6 「山青鷗白横披」の巻軸 紙本著色 一卷

明治三十七年夏、亀田翠月・加藤九阜・松井晚翠・伊東

竹香等の知友と東尋坊等三国方面の景勝地を探訪し、互に

詩歌を応酬するなどした山田介堂が、翌三十八年その印象

を一卷にまとめたもの。

右 同

⑥7 「設色山水」の扇面 紙本著色 二握

右 同

⑥8 桐製煎茶器 指物師菊齋製作の白木地桐製煎茶器（茶棚・茶入・茶托・

茶筥）に、介堂が山水・花卉等を墨画（一部彩色）した珍

しい品である。

福井市 岡本 等氏蔵

⑥9 「吾唯足知」の扇形木額 一面

大正初年、介堂が京都の画室に掲げていた扇形の木額で、

京都龍安寺の名物「吾唯足知」の蹲踞つんこを墨書してある。裏

面には「山田図案所」とあって、京都で画道研究中の介堂

が、友禅染の下絵書きを業としていたことが知られる。

福井市 原 多文氏蔵

(29)その他

⑦0 「爆竹調馬の図」巻軸 絹本著色 一卷

旧福井藩主越前松平家に伝来した優品で、福井藩正月の著名行事「馬威」の状景を描いたものである。筆者は不詳であるが、四條派の画法を学び実際にこの行事を見聞した絵師の手になると思われ、人々の表情や動きが見事に表出されており、非凡な筆力をうかがわせる。

馬威は、毎年正月十五日黒紋付に褌懸といった定式の服装の青年藩士が、愛馬に鞭をいれ街路を疾走し、これを町・農家の若者が鉦・太鼓を打鳴らしつつ攻めふさぎ、勇壮な競合いを展開したもので、藩士の馬術練磨、軍馬としての鍛練を目的としたばかりでなく、士庶の融和をもちかけた一大行事であった。

越葵文庫蔵

⑦1 「福井藩十二ヶ月年中行事絵巻」 紙本著色 一卷

旧福井藩主家に伝来した一卷で、筆者や正確な執筆年代は不詳であるが、江戸期福井城下を中心とする月毎の行事や風物が、軽快な筆致で描かれている。左に列記にする行事等が描かれているが、そのほとんどが廃絶した今日となつては、史料的にも極めて貴重である。

- 正月 桜門馬威 二月 三保島祭礼
- 三月 九十九橋桃花 四月 足羽川筏流
- 五月 菖蒲打 六月 祇園祭
- 七月 盆踊り 八月 鮎梁落し
- 九月 加茂山坂鳥 十月 護摩堂紅葉
- 十一月 献上寒鱈早駈 十二月 舟橋雪景

昭和55年度秋季特別展

江戸初期  
～明治

# 越前の画人

—解説総目録—

発行 昭和55年10月1日  
編集 福井市立郷土歴史博物館  
福井市足羽1丁目8-16  
印刷 河和田屋印刷株式会社  
福井市一本木町8-8



昭和55年10月1日～10月31日

福井市立郷土歴史博物館